

# 100の一步

## # 63 その車両、安全につき

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一步”。

今回は、車両導入時の検査を行っている技術管理部車両課からレポートします。

技術管理部車両課では、現在、ブルーライン新型車両4000形の導入、グリーンライン10000形の6両化を同時並行で進めています。開業以来初となる2路線同時の車両導入です。

2021年12月、上永谷車両基地に4000形新型車両がやってきました。

車両課の仕事は搬入されて以降が本番です。搬入から運行開始までの限られた時間の中、メーカーと共に様々な確認や試験、検査を行います。営業運転終了後に行う夜間走行試験や、各駅のホーム柵に合わせて停車する試験など、昼夜問わず一つひとつの項目を『確実』に行い、徐々にブルーラインの車両として完成させていきます。



走行試験の一つが、荷重試験です。お客様がご乗車されている状況でも性能が確保できることを確認するため、荷重水槽と呼んでいるタンクを電車に積み、そこに注水し、お客様がご乗車されている状態を模擬して走行確認を行います。1編成に約50個のタンク、その中に40t以上の水を入れて積み込みます。この試験は約2週間程、水が漏れないか心配しながらタンクと一緒に乗車し、性能の確認を行います。



完成した車両が無事に営業線を走行し、ご乗車されているお客様の笑顔に出会ったとき、私たちは、大切に育てたわが子を送り出したような気持ちになります。ブルーライン新型車両4000形は令和4年5月2日に運行開始予定です。新型車両を見かけた際にはぜひご乗車ください